



追憶の
ロイヤル

追憶のヒロイン

追憶のヒロイン

あなたの面影 見上げて咲いている
真冬のひまわり それが私なの



自壊せよ
ロンダニーニの
黒犬!!

一読し・焼き払い・
自ら喉を
掻き切るがいい!!



一護!



やめろ
アルキア
あ!!!

命を守るための戦いと

誇りを守るための戦い

…出すな



手を出すな

手を出すな

手を出すな

何度も そうつぶやきながら



手を…

出すな

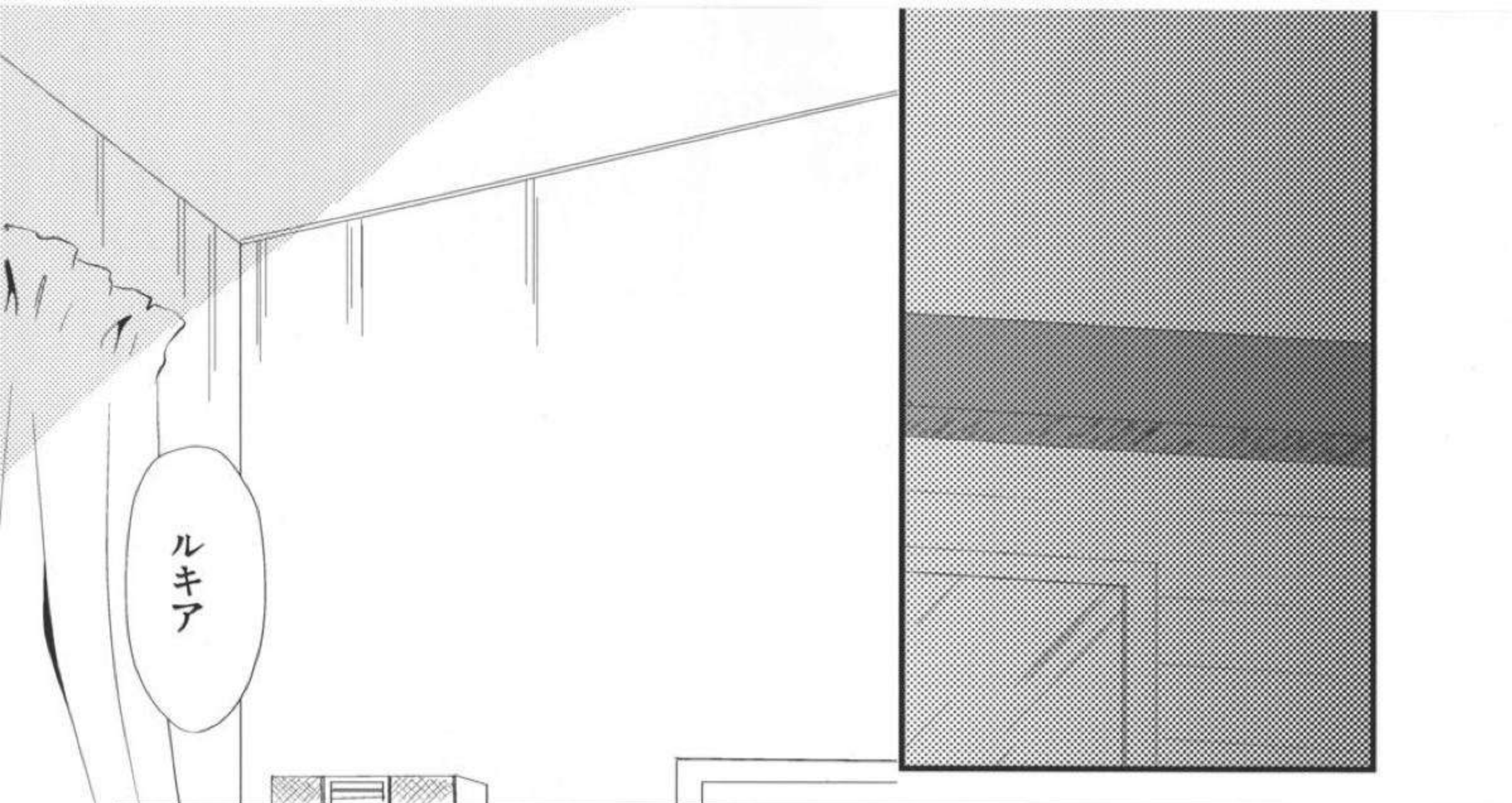
「貴方を失うかも」 そう思って 初めて気が付いた



一護!!

私

は



ルキア



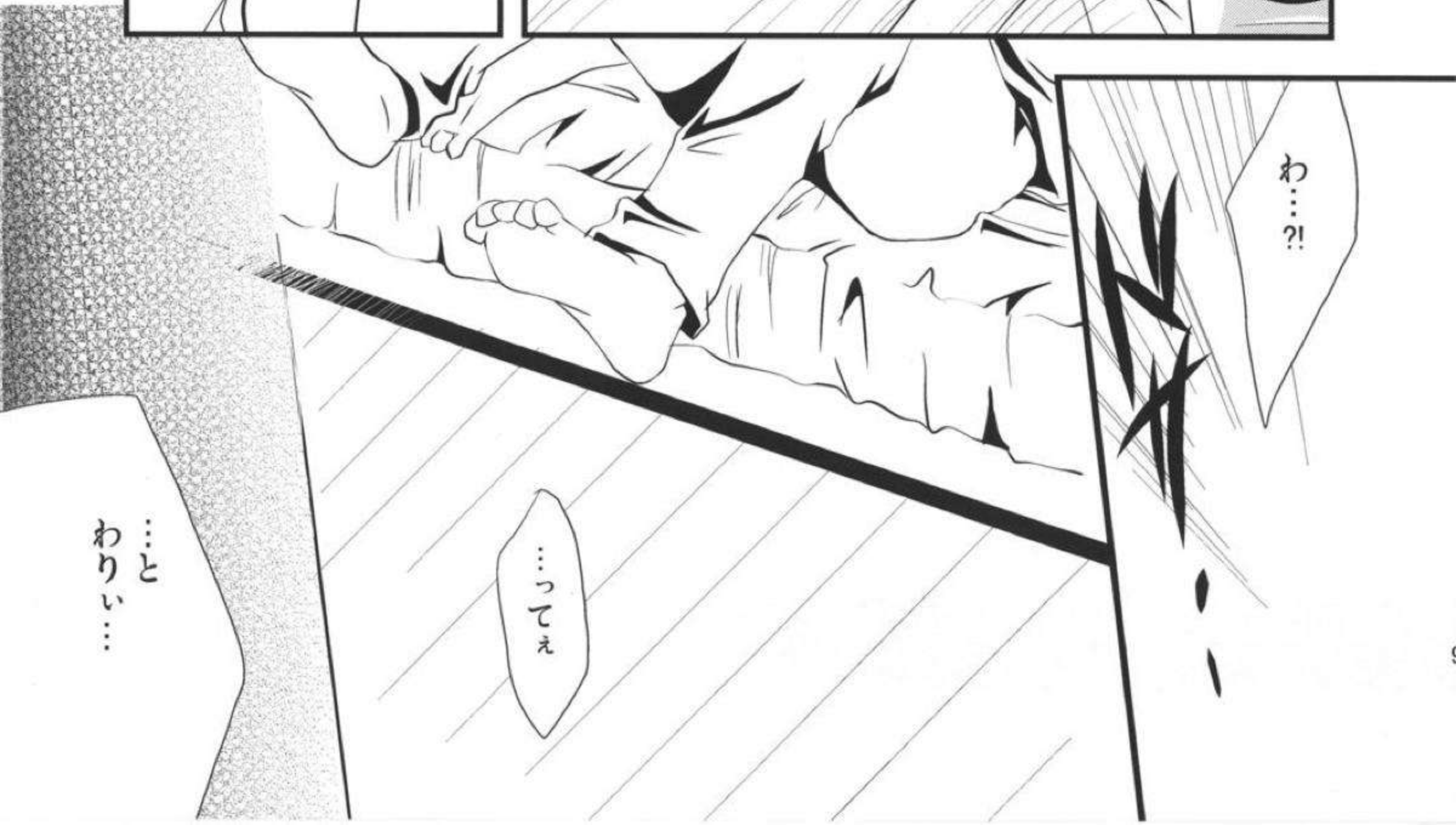
ホー……
どうかしたの
かよ

……あ、ああ
何だ？



——何でもない

……たく






ルキ…



?!



そうだな…
どうかしたのかも
しれない

私は

こやつは 貴方ではないのに



声が違う

ルキア……？



ん……

髪の色が違う

魂が違う

おま……



ちょ……

っておい！
それはマズ……

うるせー



何ひとつ貴方と同じ所なんて ありはしないのに

——俺の気持ち
とかは無視かよ



折角の据え膳だ
遠慮なく食べば
よかろう

何を言っておる

どうして重ねて見てしまうのか



オマエ…

それ本気で
言ってるのか



スル...

今 楽にして
やろう



凄んだところで
説得力がないぞ

すすす

ほら、こはもつ
こんなではないか



…キア!



何焦ってんだよ

—
…





…う

言ってみろよ



な…何言って…

何かあったんだろ？



…昨日の戦いで
一瞬貴様の死を
覚悟した
怖くなった

だけどそれ以上に
怖かったのは



私が貴様を失う資格など
元からありはしないと言うことだ

私は死神で 貴様は人間だ
元々相容れないものだ

霊力が戻れば
私は貴様の前から消える

記憶も

痕跡も

なにもかも

何かを考えるとき 誰かを思うとき そこに心が生まれるんだ——

一護にとって私は
そんなあやふやな
存在でしかない

死ねば残らない

何も


消えゆく私に 心を あずけてはくれない きっと

それで急に
こんなことを？

—で


…体のひとつでも重ねれば
俺が…その資格とやらが
手に入るとでも思ったのか？

ち、ちがう




手に入れようだなんて
思っておらぬよ

ただ…



私のことを
忘れて欲しくなかった

たとえ 私に関する
記憶がなくなっても



体のどこかで
覚えていて欲しかったのだ



すまない…

傲慢だな
私は…



心配しなくても



ちゃんとお前は
俺の中に居るよ

一護…



だいたい、
ルキアが言ったんだぜ
お前の死神の力は
殆ど俺の中にあるって

だから
それでは…

俺の魂が お前の力と
繋がってんだろ

普通の人間同士なら
まずありえねえ事
なんじゃねえの

俺が人間で

お前が死神で

だからこそその
出会いだっただら

そんな常識全部飛び越して
俺等は繋がってんだ

そんな凄いこと
簡単に忘れられるかよ

一護…

これまた
随分と
ろまんちすと
だな

るせー
言ったテーマが一番
恥ずかしいんだよ!

つかオマエが
くだらねえことで
悩んでるからだろ

くだらないとは
なんだ!



んじゃ
つまんねーことだ!



心は仲間にあずけて行くんだ

仲間にあずければ

心はそいつの中で 生き続ける——

決して一人では死ぬな



…んだよ

心がどうの
こうのって



死なねーよ

一護!



それ否定してんの
オマエの方じゃん



誰がオマエに
そんな事言ったのか
知らねーし
俺には関係ねえけどよ

なあ ルキア



オマエ

誰見てんの



もしかして
そいつ?



さっき俺にこんな事
しながら 誰見てた?

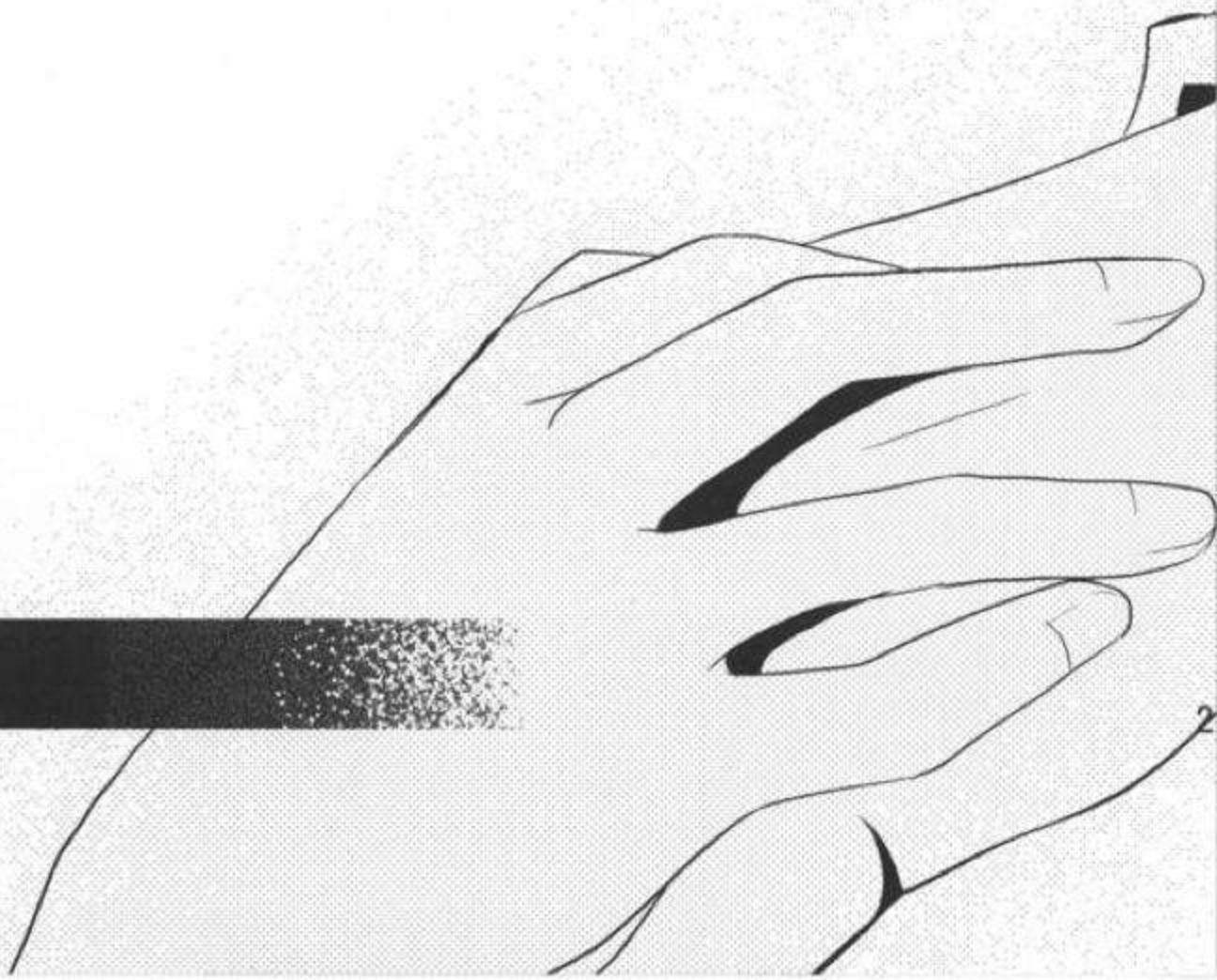
俺を見ろよ



今ここに居るのは
俺だろ

…ああ
そうだな

—— 昔 恋焦がれた男性^{ひと}が居た



実ることのない恋



赦されることのない想い



苦しかった



その心^{おもい}を殺すために 体を強請った

ルキア

お前さ

私はまた 同じ事を 繰り返そうとしていたのか——



ちゃんとして
欲しがれよ



手に入れる為に
あきらめるな

—
…



何が欲しい？

—
なあ

背中に触れた指先から

熱が伝わってきたような気がした

一護

一護

私は

一護が
欲しいよ…

——
ルキア？

その熱が 凍った背中を



あ

カチユー!!

は...



すげえ...
こんな濡れて...

これって、俺に反応してんだよな
...ってことは、そんだけ
俺のこと...

...一護



その...

すまない...

も...も...



カチユ

あああ



ヤベ…挿入^{いれ}ただけなのに
すげーいい…

は

は

…わりイ



加減…できねーかも
しんねえ…

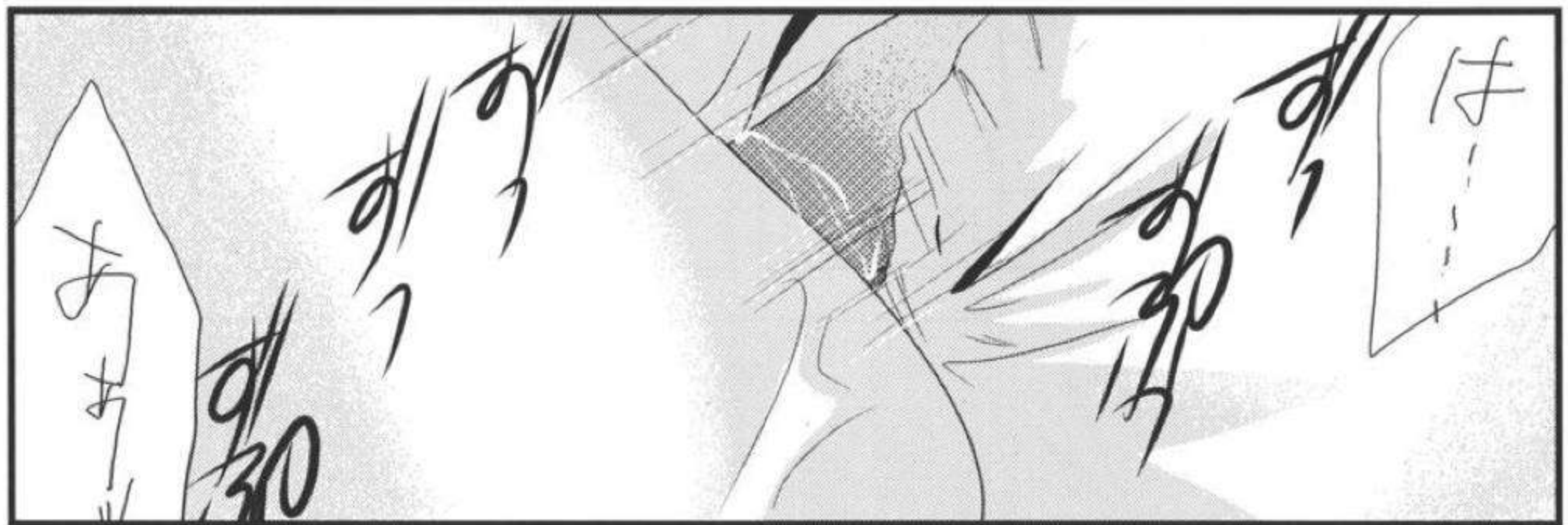
は

構わんよ
それも貴様だろう



全部 欲しいよ

ルキア…



残酷な優しさで受け入れてくれたあの男性^{ひと}

まっすぐな優しさで受け止めてくれた一護



何ひとつ貴方と同じところなんてありはしない から

…あの…





無理に聞く
つもりはねえよ



いつか



話してくれれば
いい



話してもいいと
思ったときに



一護…



—
だろ

そうだな…

いつか、その時が
きたら



追憶のヒロイン

いつか時の波が あきらめの風が

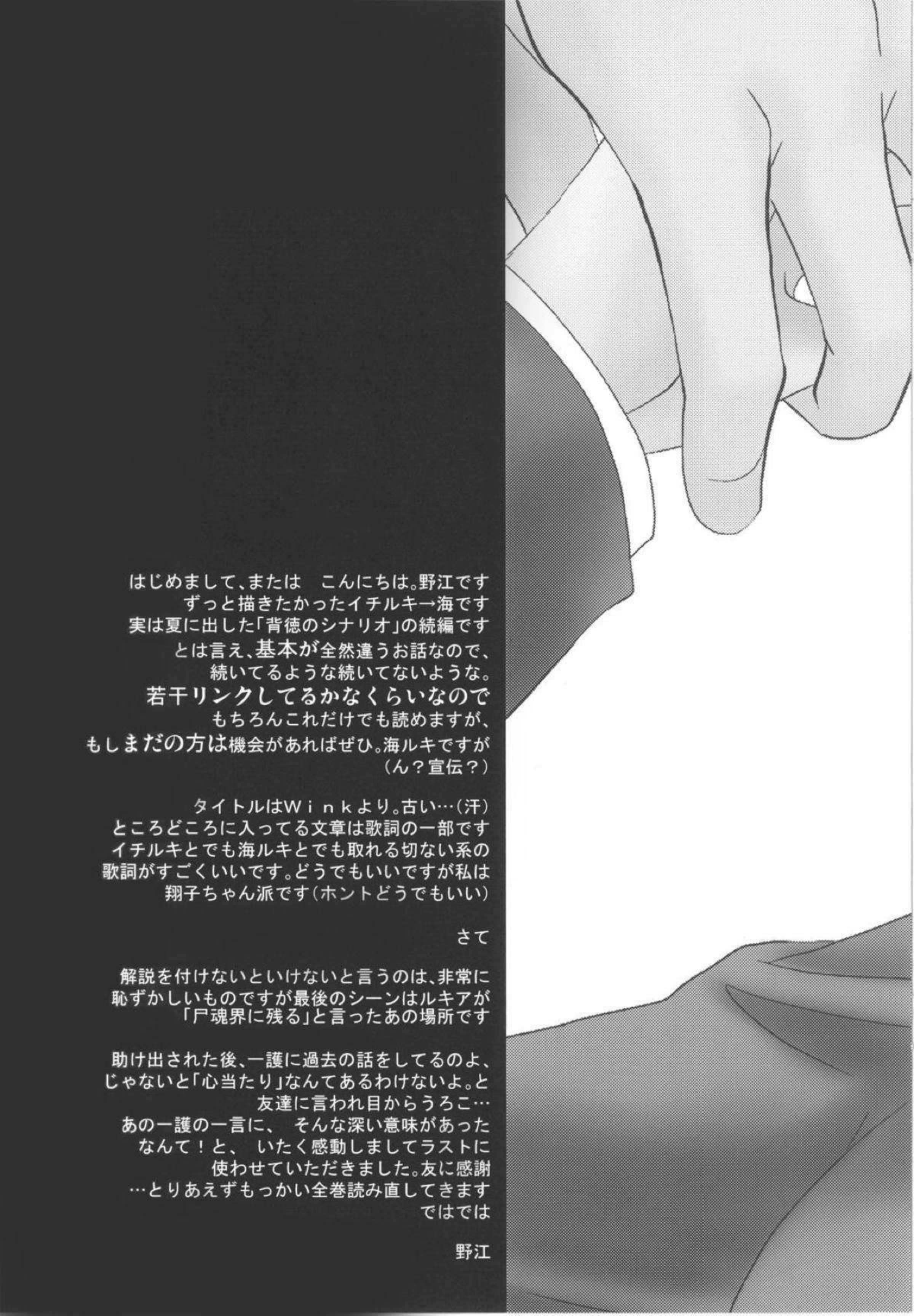
ふたりの真実を 遠くさらっても

永遠に愛してると 誓う胸のなか

私だけの歴史 守ってゆくわ

追憶のヒロイニ





はじめまして、または こんにちは。野江です
ずっと描きたかったイチルキ→海です
実は夏に出した「背徳のシナリオ」の続編です
とは言え、基本が全然違うお話なので、
続いているような続いてないような。
若干リンクしてるかなくらいなので
もちろんこれだけでも読めますが、
もしまだの方は機会があればぜひ。海ルキですが
(ん？宣伝？)

タイトルはWinkより。古い…(汗)
ところどころに入ってる文章は歌詞の一部です
イチルキとでも海ルキとでも取れる切ない系の
歌詞がすごくいいです。どうでもいいですが私は
翔子ちゃん派です(ホントどうでもいい)

さて

解説を付けないといけないと言うのは、非常に
恥ずかしいものですが最後のシーンはルキアが
「尸魂界に残る」と言ったあの場所です

助け出された後、一護に過去の話をしてるのよ、
じゃないと「心当たり」なんてあるわけないよ。と
友達に言われ目からうろこ…
あの一護の一言に、そんな深い意味があった
なんて！と、 いたく感動しましてラストに
使わせていただきました。友に感謝
…とりあえずもっかい全巻読み直してきます
ではでは

野江

めぐりあえた奇跡
そっと抱きしめて
私だけの歴史 守ってゆくわ

An illustration of two hands, one larger and one smaller, holding each other. The hands are rendered in a soft, pinkish-red color with dark red outlines. The larger hand is on the right, and the smaller hand is on the left, with their fingers interlaced. The background is a light, textured pink.

BLEACH
FAN BOOK
Ichigo×Rukia
Noem.

Orange Compile